

平成 30 年度 名古屋市におけるセアカゴケグモの繁殖時期調査

○三林真維、野々川真美子、大橋正明、伊藤誠委子、
三輪利宏、土井恵美子、伊藤靖之（生活衛生センター）

1 目的

名古屋市港区でセアカゴケグモが大量に発見されてから 10 年経ち、環境への馴化も進んでいると予想される。そこで現在の名古屋市でのセアカゴケグモの生活環を知るための調査を行い、セアカゴケグモの効果的な駆除時期や方法を考える一助とする。

2 調査期間

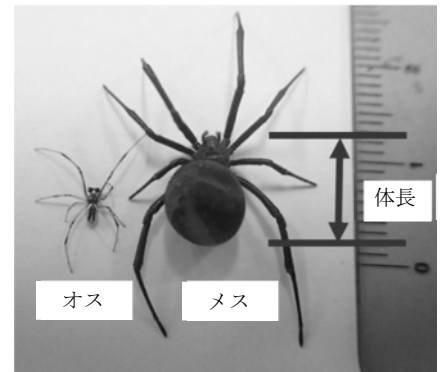
平成 30 年 4 月から平成 31 年 3 月まで

3 調査方法

港区内の 24 公園で、セアカゴケグモの生息が疑われる場所（ベンチ、グレーチング、遊具など）を点検し、見つけたセアカゴケグモを捕獲した。調査は月 2 回行い、1 回の調査は 4 名で 30 分又は 3 名で 40 分とし、合計で 120 分となるように実施した。調査場所については、同じ地点で調査を行うと捕獲圧が働くため、調査ごとに公園を変更した。

発見したセアカゴケグモはメス、オス、幼体、卵のうに分け、メスについては体長を測定した。卵のうは、個数ではなく巣に対しての有無を記録した。

尚、発見したセアカゴケグモ及び卵のうは全頭駆除し、巣については撤去した。



4 結果および考察

(1) 捕獲したセアカゴケグモについて

本調査では雌雄の判別ができない個体を幼体とした。また、出のう直後の幼体は数が多く、すべて捕獲して計数することができなかったため、幼体∞とした。幼体∞は、1 箇所の巣にいる幼体の集団を 1 と計数した。

表 1 セアカゴケグモの捕獲数（()内は卵のうと一緒に観察されたメスの捕獲数）

時期	メス									幼体	幼体∞	卵のう	オス
	10mm	9mm	8mm	7mm	6mm	5mm	4mm	3mm	2mm				
4月前半		1 (1)										1	
4月後半		1 (1)	1 (1)									2	
5月前半	4 (2)		2	2		3						2	
5月後半		2		1									
6月前半		2		2									
6月後半	1	1	1	3 (3)							3	3	
7月前半							1						
7月後半			2 (1)	5		4	3					1	
8月前半	1 (1)	3 (1)	6	4 (1)	1	8	6	4		5		3	2
8月後半	1 (1)	1	2 (1)			1	1			3	1	2	4
9月前半			4 (2)	3 (2)	2	2	6	2				4	1
9月後半				2 (1)	2	2	4	3		1		1	1
10月前半		2 (2)	2 (2)	1 (1)		1		2			1	5	
10月後半			3	4	2	1	2	10	3				1
11月前半			4 (2)	11 (9)	3	1	6	7	1			11	1
11月後半	1	1	3	3	2		1				5		
12月前半		2 (2)	3 (3)	12 (8)	4	1	1					13	
12月後半	3 (2)	5 (2)	2 (1)	7	4	11	6	3		6		5	6
1月前半			5 (1)							3 (1)		2	
1月後半			1	1 (1)		1						1	
2月前半		1		1	6								
2月後半		2 (1)	1 (1)		2		3	1				2	2
3月前半	1 (1)		2 (2)	1	1	2	1	1		1		3	2
3月後半	1		3 (2)	3 (1)	1	7		2				4	
合計	13	24	47	66	30	45	41	35	4	19	10	65	20

調査期間中、2mm～10mm のメス、幼体、オス、卵のう、幼体∞が観察された(表 1)。メスについて、卵のうと一緒に観察された個体は 7mm 以上であった。例外として、1 月前半に幼体の巣で卵のうが観察されたが、これは親グモが巣を離れていた若しくは死亡していたと考えられる。よって、セアカゴケグモは 7mm 以上のメスが産卵可能であると予想される。

クモの成体・亜成体の定義として、生殖能力がある個体を成体、生殖能力はないが雌雄の判別ができる個体を亜成体と呼ぶ場合がある。本調査で卵のうと一緒に発見されたのは 7mm 以上の個体であったことから、メスの個体は 7mm 以上を成体、6mm 以下を亜成体とした。

(2) セアカゴケグモの捕獲数の動向について

セアカゴケグモの捕獲数の動向を図 1 に示した。成体・亜成体は 7 月～12 月に多数捕獲されており、特に 11 月と 12 月が多かった。幼体は、ほとんどが 8 月～1 月に捕獲された。2 月～3 月にかけては、成体・亜成体・幼体・オスが捕獲されており、すべての成長段階での越冬が確認できた。

卵のうについては 1 年中観察できたが、6 月後半から数が増加し始め、12 月前半にピークを迎えた。このことから、名古屋市でのセアカゴケグモの繁殖期は 6 月後半～12 月前半であると考えられる。卵のうが孵化する時期は、幼体∞が観察された 6 月～11 月であると予想される。12 月以降も卵のうは多く発見されているが、幼体∞が観察されなかったことから、12 月以降の卵のうは孵化できないと思われる。この結果について、11 月後半(11/16～11/30)の平均最高気温は 17.2℃、12 月前半(12/1～12/15)の平均最高気温は 13.5℃であったことから、セアカゴケグモの発育零点が 15℃前後である(参考：Matsuse, I. T, *et al.*, 1999. Med. Entomol. Zool., 50: 71-73) ことにも反しない。孵化せずに残った卵のうが越冬しているかどうかは本調査では確認ができないため、次年度以降の調査での課題である。

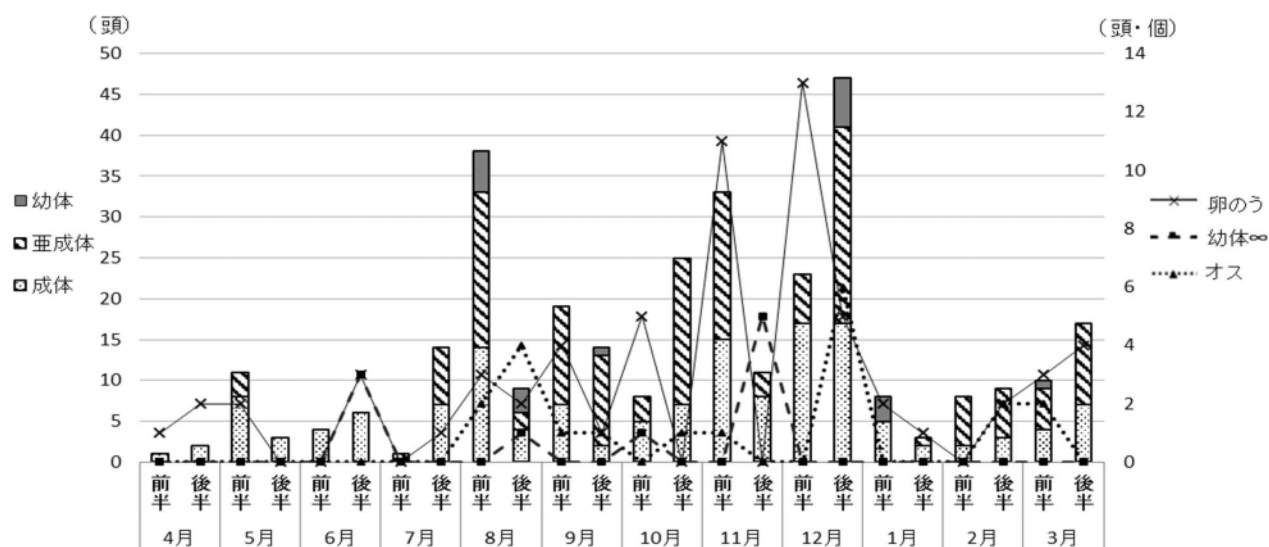


図 1 セアカゴケグモの捕獲数の動向

5 まとめ

本調査の結果より、セアカゴケグモが年間を通じて発見され、寒くなった 12 月後半にも多く見つかっていることから、年間を通して注意する必要がある。

セアカゴケグモの防除時期については、幼体が孵化して散らばる 6 月前半までに一度点検を行うことが大切である。その後の繁殖期は個体数が多く、少しでも取り逃がすとすぐに増加してしまい、防除効果が小さいため、定期的な防除が必要となる。

ただし、本調査では毎回調査公園を変更しており、公園の広さや点検場所など、季節の変化以外の要因で捕獲数が異なることも予想される。そのため、ある程度条件をそろえられる場所での調査が今後の課題である。